**松之山温泉**

松之山（まつのやま）温泉はかつて越後守護上杉（うえすぎ）家の「隠し湯」だった。伝説によると、この温泉は14世紀に、翼の傷を癒すために鷹が毎日同じ場所に飛んでくるのを見た木こりが発見したと言われている。よく見ると、地元の人々は鷹が地面から湧き出る温泉の上で羽を休めていることに気づいたという。15世紀後半、上杉家の娘が結婚前に深刻な肌の状態を癒すためにここに送られたことが記録されている。

地熱で温められた温泉が供給されるほとんどの日本の温泉とは異なり、松之山温泉の貯留層は海水で満たされている。約1,200万年前、東日本の大部分はまだ海底にあった。地球の地殻の2つのプレートが重なり合って新しく陸地ができたとき、海水が層の間に閉じ込められたのである。温泉の塩分含有量が高いため、地元住民は第二次世界大戦後の一時期、その水から塩を採取していた。

松之山温泉の水にはさまざまな有益な特性があり、日本の「三大療養温泉」（*日本三大薬湯*）と呼ばれている。温泉水には、他のどの温泉よりも多い1リットルあたり349.5 mgのホウ酸が含まれており、皮膚病の治療に効果的な抗真菌性と抗細菌性を持っている。温泉は弱アルカリ性で刺激が少なく、メタケイ酸の天然の保湿特性により、しっとり輝く肌を作ると言われている。

一番最近引かれた温泉は、松之山で最も熱い温泉である。温泉水は98度で源泉から湧き出ており、レトルトパックの食事を調理できるほどの熱さのため、従業員が温泉を調理目的に使用することで知られている。また、この地熱で温められた水は、スプリンクラーでくみ上げて道路の融雪にも使われているほか、蒸気を利用して発電する方法も地元の起業家によって模索されている。